



平成15年度 社団法人日本グライダークラブの記録



平成15年度に全ページがオープンしたクラブホームページ www.glider.jp

社団法人日本グライダークラブ定款より

(目的)

第3条 本クラブは、グライダー(モーターグライダー並びにグライダー曳航用軽飛行機を含む。以下同じ)の操縦訓練・研究・制作等を通じ、航空知識の普及と航空関係技術の向上をはかり、また、広く各国グライダー界と交流し、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

(事業)

第4条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの操縦練習並びにその指導。
- (2) グライダーの普及並びに技術の向上をはかるための記録会・競技会・講習会等の開催。
- (3) グライダーの操縦技術・安全運行・事故防止対策等に関する研究会・講演会・映画会等の開催。
- (4) グライダーの設計・改造・制作・整備・修理。
- (5) グライダーに関する出版物などによる航空思想の普及。
- (6) その他、本クラブの目的達成に必要な事業。

Club Operation in 2003


平成15年度 社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成16年1月31日
(社)日本グライダークラブ
理事長 吉田 正



社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成15年度は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成16年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

1. 公益事業


1) 指定養成施設、滑空機研修会事業

	<p>当クラブ主催により板倉滑空場において下記コースを実施した。</p> <p>①指定養成施設(指定養成コース) 期 間 : 平成15年9月5日、6日、7日、13日、14日、15日、20日、21日(8日間) 参加人数 : インストラクター4名、練習生3名 概 要 : 3名が自家用滑空機の受験をし、3名とも合格した。</p> <p>②自家用受験準備コース(ベーシックコース) 期 間 : 平成15年8月10-15日(6日間) 参加人数 : インストラクター4名、練習生5名 概 要 : 受験準備の目的で、6日間の集中トレーニングと指定養成施設入所試験を行い、4名が合格した。</p>
--	---



2) 滑空機安全講習会の開催

	<p>First Aid(グライダー飛行訓練救急手当)講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年8月9日 参加人数 : 21名 概 要 : 館林市消防署に依頼して救急救命の講習を行い、万一の場合の連絡方法、取るべき手段などを習得した。</p>
	<p>インストラクター認定・リフレッシュコース(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年8月9・10日(2日間) 参加人数 : インストラクター15名、自家用免許保持者5名 概 要 : インストラクター年次教育の実施方法の研究、AFR(Annual Flight Review)飛行試験の実施方法の研究と、これらの飛行を実施した。</p>



	<p>EMFTコース(異常姿勢からの回復トレーニング) 期 間 : 平成15年8月16日(学科講習)・飛行講習別途実施 参加人数 : 受講者22名 概 要 : ストール、スピン、サブ G、スパイラルダイブについて座学と飛行実習を行った。</p>
	<p>エアロバティクス体験会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年5月11日・17日(2日間) 参加人数 : 受講者14名 概 要 : (社)日本滑空協会曲技飛行委員会の後援により、普段体験できない高度なエアロバティクスの体験会を実施した。</p> <p>ベーシックエアロバティクス講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年12月13日 参加人数 : 受講者5名 概 要 : (社)日本滑空協会曲技飛行委員会の後援により、ベーシックエアロバティクスの講習会を実施した。</p>
	<p>モーターグライダー・クロスカントリー講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年6月7日・8日(2日間) 参加人数 : 受講者6名 概 要 : 動力機の野外飛行に必要な知識の整理およびフライトスキルの向上を目的とし、座学に加え、経験豊富なインストラクターの同乗による飛行実習を行った。</p> <p>モーターグライダー・クロスカントリー安全講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年10月25日(1日間) 参加人数 : 受講者19名 概 要 : 日本国内で動力機により野外飛行を行うための、法規、空域システム、ATC、気象、各種手続などに関する講習会を、航空局の「小型機の技量維持に関する通達」をもとに実施した。</p>
	<p>滑空機二等航空整備士準備コース(整備コース(第1回目)) 期 間 : 平成15年6月14日・15日・21日・22日・28日・29日(6日間) 参加人数 : インストラクター4名、受講者10名 概 要 : 二等航空整備士(滑空機)受験に向けて学科、実技の講習を実施した。</p> <p>滑空機二等航空整備士受験コース(整備コース(第2回目)) 期 間 : 平成15年11月1日・2日・3日・8日・9日(5日間) 参加人数 : インストラクター4名、受講者19名 概 要 : 滑空機二等航空整備士、二等運航整備士受験に向けて学科、実技の講習を実施した。6名が二等航空整備士(滑、上級)、1名が二等航空整備士(滑、動力)、1名が二等運航整備士(滑、上級)を受験し、二等航空整備士(滑)および(動力)にそれぞれ1名、合計2名が合格した。</p>
	<p>ウェーブクロスカントリー講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年6月21日 参加人数 : 受講者14名 概 要 : 日本初・国内 1000km 距離飛行を達成した市川博一氏によるウェーブによる野外飛行の実践講習会を実施した。</p>

	<p>ウェーブフライト講習会(アドバンスドコース) 期 間 : 平成15年12月6日 参加人数 : 受講者37名 概 要 : ウェーブの原理、ウェーブ内での飛行方法、酸素システム、高々度飛行空域、医学的知識、飛行準備などの基本知識についての講習会を実施した。</p>
---	---


3) 社団法人日本滑空協会主催イベントへの援助

	<p>2003年日本滑空選手権 FAI クラス 期 間 : 平成15年3月21日、22日、23日、4月4日、5日 (5日間) 開催場所 : (社)日本グライダークラブ板倉滑空場 主 催 : (社)日本滑空協会 公 認 : (財)日本航空協会 後 援 : 文部科学省 出場者数 : 15機 概要 : 国内最高峰の競技会の開催地として大会の開催に協力した 競技結果 : 当クラブからは統合クラス2位・3位、18mクラス2位を獲得</p>
	<p>プライマリー・グライダー(LAK16)体験搭乗会 期 間 : 平成15年1月18日 開催場所 : (社)日本グライダークラブ板倉滑空場 主 催 : (社)日本滑空協会 後 援 : 文部科学省 参加者数 : 15名 概 要 : 次世代を担う子供たちへの航空知識の普及を目的とした『板倉子供グライダー教室』の開催へ向け、主に指導者を育成するための搭乗会を実施した。</p>

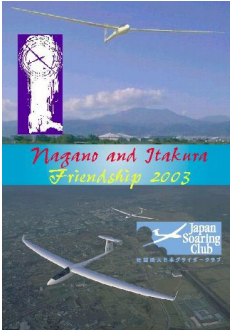
4) 地域交流および認知度の向上

	<p>渡良瀬バルーンレース 2003 期 間 : 平成15年4月6日 開催場所 : 渡良瀬遊水池運動場 開 催 者 : 渡良瀬バルーンレース組織委員会 公 認 : 日本気球連盟、熱気球グランプリ運営機構 後 援 : 国土交通省利根川上流工事事務所、(財)日本航空協会、栃木県、栃木県藤岡町、藤岡町教育委員会、埼玉県北川辺町、群馬県板倉町、藤岡町商工会、藤岡町観光協会、藤岡町体育協会、藤岡町女性団体連絡協議会、JA 藤岡中央、(財)渡良瀬遊水池地アクリメーション振興財団、栃木県観光協会、下野新聞社 動員人数 : 約 34,000 人(主催者発表) 概 要 : 地元に着陸しつつある町おこしイベントに、同じ航空スポーツとして参加。航空知識の普及とグライダーへの理解を目的に機体展示(ASW24)を行い、来場者にグライダーを紹介した。</p>
	<p>陸上自衛隊北宇都宮駐屯地開庁30周年記念祭 期 間 : 平成15年5月25日 開催場所 : 陸上自衛隊北宇都宮駐屯地 開 催 者 : 陸上自衛隊航空学校宇都宮分校 概 要 : 陸上自衛隊航空学校宇都宮分校の記念行事に協力し、機体展示(Nimbus4DM)を行うと共に、多数の来場者へグライダーを紹介し、認知度の向上に努めた。</p>


5) 国際交流

	<p>中国航空運動協会視察団来訪</p> <p>期 間：平成15年12月6日</p> <p>概 要：航空スポーツに対する日本の実情視察および中国の実情の紹介並びに両国の親善友好を目的とし、中華人民共和国の中国航空運動協会より副秘書長をはじめ民航総局処長など総員10名が来日し、板倉滑空場の視察に訪れた。当クラブの歴史や実情を紹介。中国側から活発な質疑応答があり、今後の交流を約束して両国の親善を図った。</p>
---	--


6) 他団体交流事業

	<p>日本各地のグライダー関係団体と活発な交流</p> <p>交流団体：(財)日本学生航空連盟、(社)宮城県航空協会 (社)長野県滑空協会(長野支部・諏訪支部)、 (学)日本航空学園、NPO 法人関宿滑空場、 NPO 法人羽生ソアリングクラブ、読売学生航空連盟、 (社)日本女性航空協会、日本モーターグライダークラブ、 ウインパル 他</p> <p>概 要：日本各地の団体と交流を深め、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、79条申請の相互協定、講習会・イベントの相互案内を促進する体制を確立した。</p>
---	--

7) 他団体合宿・体験搭乗会受入


	<p>板倉滑空場で合宿・体験搭乗会を行った諸団体</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 早稲田大学航空部 (平成15年2月12日～2月21日) ② 大阪大学・名古屋大学航空部 (平成15年2月19日～2月26日) ③ 慶應義塾大学航空部 (平成15年2月2日～2月15日) ④ ジュリエットアルファの会 ⑤ 東京三田倶楽部 ⑥ (社)日本女性航空協会 <p>概要：上記団体について、運航支援および体験搭乗を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>
--	--

8) 操縦教育

	<p>滑空機、動力滑空機練習生に対する操縦教育実施</p> <p>土、日、祝祭日を中心に熱心な練習生が集まり、ライセンスの取得を目指して操縦教育を行った。平成15年1月に動力滑空機・自家用操縦士が1名合格した。自家用滑空機の合格(3名)は上述のとおり。</p>
---	---

2. 広報活動

グライダーの普及と発展に寄与すべく、グライダーに関する広報活動を積極的に行い、認知度および理解度の向上に努めた。クラブ内においても情報の共有化を推進した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ グライダーに関する様々な情報(安全情報を含む)と公益事業などクラブの主な活動内容を掲載したホームページ www.glider.jp を制作・公開。 ・ 会員専用のインターネットサイトを利用し、安全情報、事務手続きに関する資料などの共有化システムを構築。 ・ 会員向けクラブニュース「JSC News」の定期発行(隔月)。 ・ クラブロゴマークを作成。 ・ 2003年日本滑空選手権 FAI クラスのプレスリリースを配信。 ・ アーティスト、倉木麻衣のプロモーションビデオ撮影に協力。 ・ 日本ユニシス(株)の商業撮影に協力。 ・ 各種マスメディアの様々な取材に協力。結果として、新聞、雑誌、TV、ラジオで多数紹介された。
---	--

3. 講習会以外の安全事業

- 1) 北関東航空連絡会への参加・発表。
- 2) 国際医学会での報告。
(国際航空宇宙医学会(ICASM)にて「日本の滑空機事故におけるヒューマン・ファクターの動向」)
- 3) FAI 医事委員会への協力。(FAI-CIMP 委員の会員による協力)

4. 安全体制の確立

クラブ運航の安全体制を確認するために、下記項目の定着を促進した。

- 1) 航空局の「小型機の技量維持に関する通達」を受け、いち早くAFR制度を導入。
更に、チェックアウト規定およびビジター規定を整備し、広く一般への周知を目指してクラブホームページから参照可能とした。その結果、当該制度が浸透し、クラブ内外に技量維持訓練および安全情報の伝達などの定着を図った。
- 2) 運航規定、フライトマニュアル、ピストマニュアルなどの規定類を整備し、メーリングリストの共有フォルダーにアップロードすることにより、常時参照可能とし、クラブ員の情報の共有化を図った。
- 3) 飛行前の全員参加によるブリーフィングで、安全に必要な項目をピスト白板のチェックリストに記入し、常時確認を実施した。
- 4) 運航日に運航管理者1名、インストラクター1名の常時配置を徹底した。
- 5) 着陸帯、発航帯、運搬帯、駐機エリアの区分を明確にし、使用方法を徹底した。
- 6) インシデント対策その他運航の安全を確保するための施策を逐次実施した。

5. クラブ運営体制の改善

クラブ内部の運営体制を改善するために、下記の項目を実施した。

- 1) インストラクター、曳航パイロットに対して研修会を実施し、安全情報を確認する機会を持った。
- 2) 定款目的である公益事業を普及させ、講習会などへの参加者を増加させるための、効率的な講習会運営システムを考案し実施した。その結果、クラブ内外から多くの受講生が集まり、今年度講習会参加人数は延べ200名あまりとなった。
- 3) クラブ員の各種データ管理を漏れなく行うためのデータベースの元になる会員データの更新プロジェクトを立ち上げた。
- 4) 航空局但書許可申請(60条、79条、81条、89条、91条、92条)および自衛隊(入間/宇都宮)許可申請書類の内容の見直し、申請漏れの有無の確認を実施し、会員が申請状況について、クラブメーリングリスト上の共有フォルダーで常時閲覧できるようにした。
- 5) 若年層支援を推進するため、(財)日本学生航空連盟と各種業務提携を進めることとした。また学生の講習会参加料などに学生割引の制度を導入し、多くの学生が講習会に参加した。
- 6) クラブ事務の負担軽減のために、新橋事務書および板倉滑空場にADSL回線を導入した。
- 7) 滑空場施設改善資金の調達のため、55周年記念事業である寄付事業を開始した。現在までの集計状況では55周年までに目標額に達しない見込みである。

6. 理事会活動

定期理事会を毎月開催し、クラブ運営、渉外、講習会・イベント開催に向けての準備を行った。

平成15年度に前述活動以外で実施した理事渉外活動の概要は、以下のとおり。

- | | |
|----|--|
| 1月 | 平成14年度寄付者へのお礼状送付
平成15年度の事故・損傷発生時の共済制度の見直しおよび実施
「笹川スポーツ財団」補助金申請(結果:却下)
平成15年度(社)日本グライダークラブ総会準備 |
| 2月 | 板倉滑空場サロンおよび宿舍の家具入れ替え
平成15年度(社)日本グライダークラブ総会開催
平成14年度決算についての会計監査終了 |
| 3月 | 日本滑空選手権 FAI クラス開催地として開催準備
(社)日本公益法人協会 HP に(社)日本グライダークラブ情報開示資料の公開 |
| 4月 | 滑走路の使用方法について、ゴルフ愛好者の皆様方へのお祝い作成・配布 |

- 5月 陸上自衛隊北宇都宮駐屯地協議会・懇親会に出席
日本航空宇宙工業会総会および懇親会出席
平成55周年記念事業の寄付活動開始
- 6月 会員への保証金返還開始
- 7月 平成15年度安全講習会スケジュール・実施要領作成
- 9月 クラブ公式書類の見直し、整理、共有フォルダーへのアップロード
国土交通省・航空局総務課による監査実施
平成15年度日本航空協会関係者 表彰式ならびに記念祝賀会出席

- 10月 日本財団図書館 HP 上の(社)日本グライダークラブ補助金事業記録ページのリンク実施
- 11月 (社)日本女性航空協会「空を愛する女性たちを励ます賞」表彰式および懇親会出席
航空局の指導により、旧規定(経理規程・就業規程など)の改訂
- 12月 (社)日本グライダークラブ平成15年度決算書類準備
(社)日本グライダークラブ平成16年度総会資料準備

7. クラブ活動

- 1) 1年間で2046回の発航回数を誇る、日本でも有数規模のクラブ運営を実施。
- 2) 11名の新入会員を迎え、正会員101名、準会員57名の規模。(平成15年12月20日現在)
- 3) GPSカメラを使用した長距離クロスカントリーのためのプロジェクトチームを組織し、調査を実施した。
今後データ加工を実施し、プロジェクトを進める予定。
- 4) 滑空記録の樹立



日本国内初1000km 距離飛行達成

平成15年4月13日、板倉滑空場を離陸した、ニンバス4DM(機長:市川博一氏、副機長:稲垣政文氏)が1042kmの距離をウェーブを使用して7時間55分で飛行した。

日本でも長距離のクロスカントリーが可能であることが実証された、歴史的な瞬間である。

- 5) 板倉滑空場に集う多くのクラブ員、他団体のパイロットに対し、飛行に関する支援を提供し、操縦訓練・研究に励んだ。その結果、多くの滑空記章取得者、高等飛行達成者が誕生し、グライダーが“世代を越えて楽しむことのできる生涯スポーツである”との認識を新たにした。



板倉滑空場



(社)日本グライダークラブの活動拠点

★板倉滑空場インフォメーション★

座標:N 36°15.875 E 139°37.987

使用周波数:板倉フライトサービス
130.675 MHz

滑走路方向: 15 / 33

滑走路面: 草地

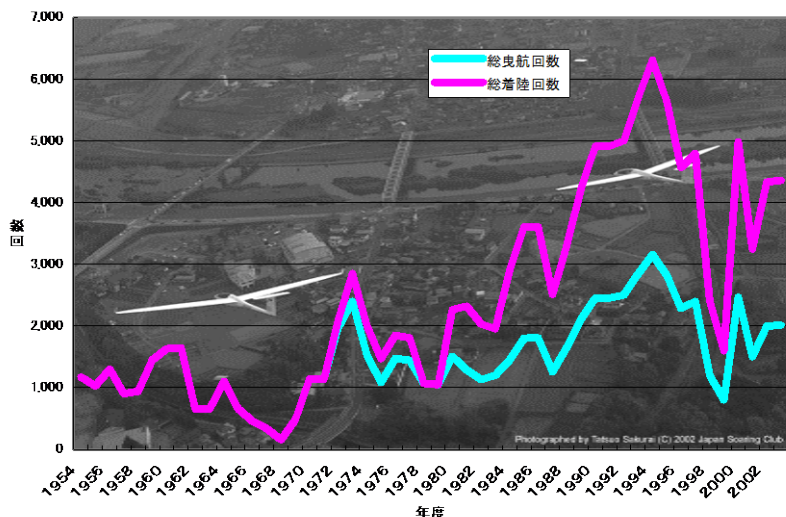
全長: 約 1000 m (3280 ft)、

全幅: (平均) 60 m (200 ft)

滑走路標高: 57 ft

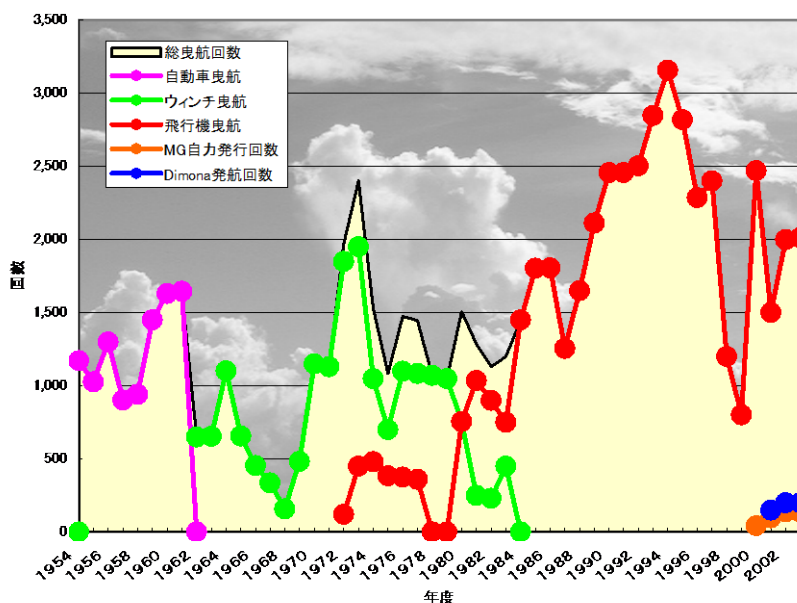


(社)日本グライダークラブ 総曳航回数・総離着陸回数対比
(1954-2003年)



(社)日本グライダークラブ
統計資料館

(社)日本グライダークラブ曳航回数推移 (1954-2003年)





社団法人日本グライダークラブ

■板倉滑空場
住所：〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL：0276-77-1249 FAX：0276-77-0830

■東京事務所
住所：〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1(航空会館 9F)
TEL：03-3591-7728 FAX：03-3591-7726
E-mail: jsc@desk.email.ne.jp
URL: www.glider.jp

板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2003年)

